

1. 事業内容

1.1 「海老干潟を学ぶ海辺の自然学校の実施」

本事業では、広島県尾道市立浦崎小学校の5年生を対象に、夏に環境学習を実施しました。同時に、学生ボランティアの参加並びに精通者（漁業協同組合を含む）の参加によるテキスト作成の検討を行った。

なお、環境学習の目的は以下のように設定しました。

- ・地域の海について観察学習を行うことで、子供たちのふるきとの海を大切にする心を育てる
- ・地域の自然に関心をもち理科学習の発展・充実を図る
- ・近い将来の世代を担う学生の方に海の環境保全について考える機会の提供

1.2 実施日時

(1) 環境学習事前打合せ

平成21年4月27日（月）	環境学習事前踏査及び事前打合せ
平成21年5月10日（日）	浦崎小学校指導
平成21年6月17日（水）	尾道大学など
平成21年6月22日（土）	環境学習打合せ

(2) 環境学習

平成21年7月6日（月） 11:30～16:00

(3) テキスト作成検討

平成21年12月11日（金）	原稿作成（生き物）
平成22年 2月18日（木）	父兄参観日において発表
平成22年 2月24日（水）	中国新聞尾道支局からヒヤリング
平成22年 3月 2日（火）	中国新聞掲載

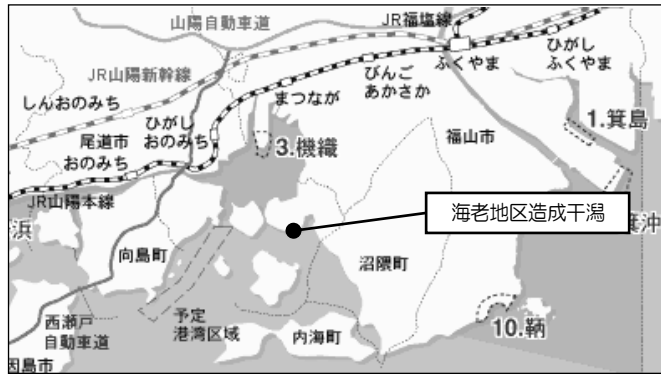
(4) 環境学習成果発表会

平成22年2月18日（木）

1.3 実施場所

(1) 環境学習

尾道市海老地区造成干潟



(2) テキスト作成検討

浦島漁協会議室



(3) 環境学習成果発表会

浦崎小学校

1.4 実施内容

(1) 環境学習

○干潟についての講義(浦崎小学校教室)

○現地環境学習(海老地区造成干潟)

- ・巣穴温度計測
- ・干潟生き物観察
- ・干潟環境マップ作成

午前中の講義では、干潟の役割や大切さを学べる内容とした。午後からのフィールドワークでは巣穴の温度測定や生きもの観察など、午前中の講義で学んだ内容を体感できる様な内容とし、海老干潟の生きものマップを作成した。



教室での講義
(当日の学習内容について)



干潟での学習

(2) テキスト作成検討

海老干潟に関連する6漁協協同組合の組合長にお集まり頂き指導者テキストの内容について意見交換を行った。

これをもとに、夫、夫の海域（浜）の活用についてのご意見をお伺いした。

参加漁協

- ① 吉和漁業協同組合長 山本 正直
- ② 尾道漁業協同組合長 大胡 隆
- ③ 浦島漁業協同組合長 吉岡 照明
- ④ 尾道東部漁業協同組合長 恵谷 一雄
- ⑤ 向島町漁業協同組合長 青木 剛二
- ⑥ 松永漁業協同組合長 大村 一雄



海老干潟(尾道)の生物知って

広島NPO 調査手引作成 住民・児童に配布へ

尾道市浦崎町の海老地区にある人工干潟の生物調査の手引ができた。身近な海への理解を深めてもらうおつと、NPO法人「瀬戸内里海振興会」(広島市中区)が作成した。浦崎町の住民や小学校に無料で配る。

(鈴木大介)

学習用テキスト(12冊)と、指導者用調査マニュアル(50冊)の2種類。いずれもA4判カラー刷りで1000部ずつ作った。

学習用は生物観察に使う調査票や調査結果のまとめ方などを載せている。スナガニやハクセンシオマネキなど、海老干潟で見られる主な生物19種も写真で紹介している。

中国地方の自然愛好家たちでつくる同会は瀬戸内海の生物調査に



取り組んでいる。海老干潟では2004年から毎夏、浦崎小の児童と福山大の学生が自然学習を続けており、生物多様性の保護や水質浄化など、干潟の果たす役割を伝えるため手引を企画した。

制作費約40万円は、日本財団の助成を受けて同会が負担した。指導者用と併せ、浦崎小の総合学習の教材として提供する。

同会の田坂勝専務理事(65)は「生物の宝庫である干潟の重要性を知って、古里の干潟を大切にしてほしい」と期待している。

干潟での生物調査の方法をわかりやすく解説した手引

テキスト作成新聞報道「中国新聞 10'3/2」

(3) 環境学習成果発表会

環境学習の実施結果について、参観日に発表を行った。



1.5 参加人数

(1) 環境学習

浦崎小学校教員4名、当会スタッフ5名に加え、尾道市立尾道大学の学生4名参加し、小学生の安全管理・指導を行い、その後、学生とテキスト作成についての意見交換を実施した。

浦崎小学校 5年生児童	教員	スタッフ	尾道市立 尾道大学学生	合計
33名	4名	5名	4名	46名

(2) テキスト作成検討

参加漁協

- ① 吉和漁業協同組合長 山本 正直
- ② 尾道漁業協同組合長 大胡 隆
- ③ 浦島漁業協同組合長 吉岡 照明
- ④ 尾道東部漁業協同組合長 恵谷 一雄
- ⑤ 向島町漁業協同組合長 青木 剛二
- ⑥ 松永漁業協同組合長 大村 一雄

スタッフ3名

(3) 環境学習成果発表会

父兄約20名

スタッフ 2名

2. 事業目標の達成状況

参加した小学生の多くは、生物が豊富な干潟に触れ、楽しく、興味を持つと共に、学習実施後の感想文からも、ふるきとの海を大切に作る心が芽生えたものと推察される。

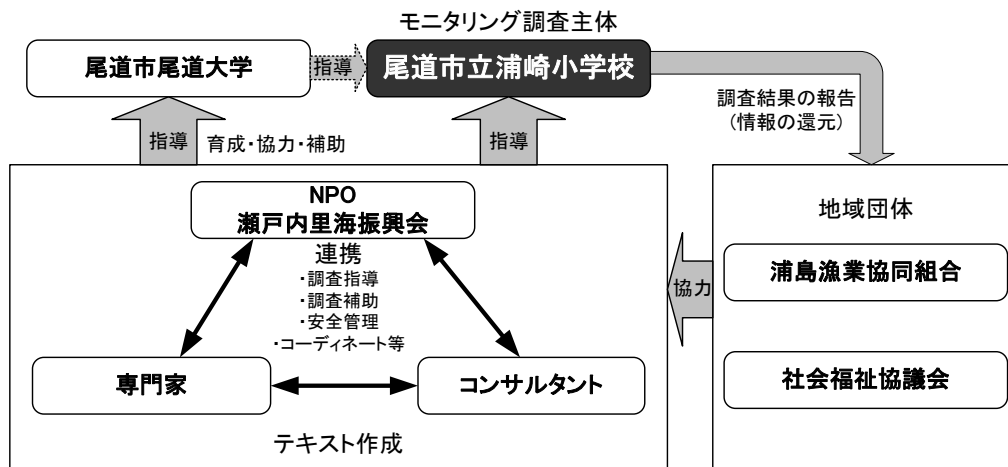
また、参加・協力頂いた学生ボランティアにも、子供と一緒に海の環境保全について考える機会の提供が行えた。ただし、当初想定していた(仮)松永湾学生サポーターについては、漁場を管理する漁協との関係から、組織設立までは至らなかったが今回作成したテキストを活用しながら来期には市・地域・学生によるサポーター構築に向けて取り組む事としたい。

3. 事業成果

3.1 無形成果

今回の活動を通じて、干潟の環境学習について下図に示す小学校、大学、漁協をはじめとする地元組織及びNPOの連携・協力体制が構築できた。

今後は、継続的な取り組みが可能となる資金調達と取り組み全体のリーダー的な人的資源を地元地域に育成することが課題であることから関係する漁業協同組合にお集まり頂き広範な場所（海域）の提供並びに尾道大学・尾道市役所などと協働して取り組んで頂けるようテキストを配布し継続てきに観察することなどを構築した。



3.2 有形成果

事業成果物	規格	数量	
		当初	追加
海老干潟モニタリング調査テキスト (児童用)	A4 15p	100冊	50冊
海老干潟モニタリング調査 指導者用干潟調査マニュアル	A4 43p	200冊	100冊
環境学習発表会	CD-R	マスターデータ 1枚	—

テキストについては、本環境学習関係者以外からの問い合わせが既に3団体よりあり、追加印刷を実施した。